

ヴィオネは人形にドレーピングしながら豊かに発想をふくらませ、膨大な数のデザインや技法を生み出しました。布の性質や身体の動きを熟知した上で立体から平面図をおこし、現在のパターンメイキングの基礎を作ったのです。

クチュリエとは幾何学者であるべきだと思います。なぜかという
と人間のからだは幾何学的な形をしているので、それに布地を関連
づけなければならないからです。

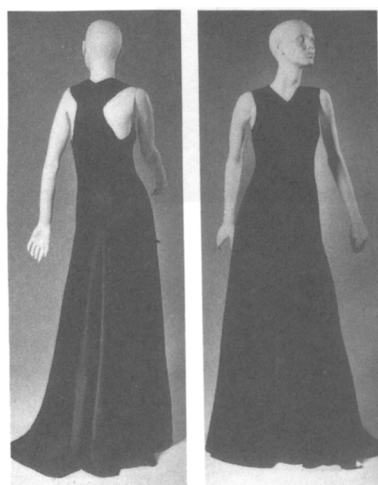
女性が笑うとき、そのドレスも笑うようにつくらなければ。

マドレーヌ・ヴィオネ

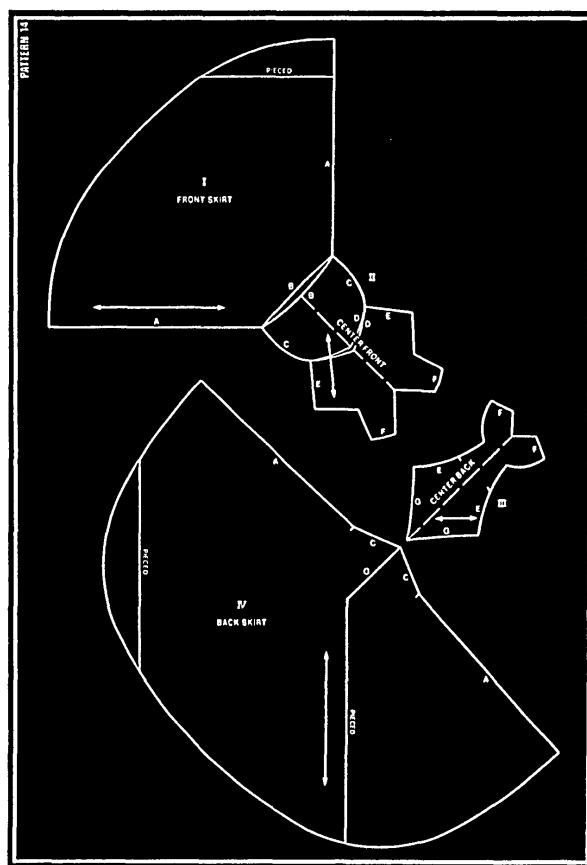
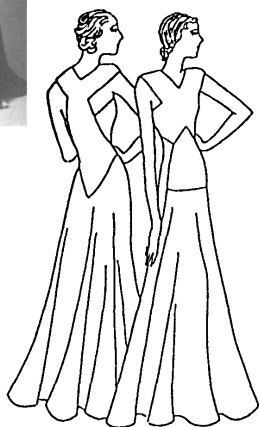


人形を用いて立体裁断するヴィオネ
photo Thérèse Bonny(1923)

ヴィオネの立体裁断がいかに独創的なものだったか — 「ヴィオネ」(求龍堂刊)を見ると、よくわかります。この本にはアメリカの研究者によって復元された貴重なパターン38点が、長方形、三角形、四分円等の章に分けられ、構成の解説付きで紹介されています。下図は「四分円の展開」の章から。60余年前とは思えないモダン・デザインです。



1932年作・解剖学的カットのプリンセススタイルのドレス。バイアスの伸びを調整した後、裁断。バイアス、たて地、よこ地が縫い合わされる。
黒のシルクサテン/京都服飾文化研究財団所蔵/photo Irving Solero



(この頁の写真・図・ヴィオネの言葉は、「ヴィオネ」ペティ・カーク著 東海晴美編/求龍堂03・3239-3381より転載)